

入所時説明書（参考例）について

本協会が団体契約者となって保険制度を構築している「介護老人保健施設総合補償制度」においては、事故発生後訴訟等のトラブルに発展する例が多数ございます。しかしその中には、入所時に転倒・転落や誤嚥窒息等のリスクを伴うことについての説明が無い、又は、不十分であったことがその原因と思われる例もみられます。

また、入所時にそれらリスクの説明をしてあっても、口頭の場合、「説明をした。」、「いや、聞いてない。」といった水掛論になることもあります。

そこで、管理運営委員会安全推進部会では、リスクに関する説明をきちんと実施することにより、ご家族とのトラブルを極力減らすことを目的として、入所時説明書（参考例）を作成いたしました。

まだ、書面を用いてご家族に、入所時にご利用者が抱えるリスクの説明を行っていない施設におかれましては、本例を参考にして、書面による入所時のリスクの説明を心がけていただきますようお願い申し上げます。

本参考例を当会ホームページに掲載しておりますので、必要に応じてダウンロードしていただき、ご活用いただければ幸甚に存じます。

既に、施設独自の様式で説明をされている施設におかれましては、引き続き施設独自の様式をご利用いただいても結構です。

なお、書面を用いて説明をしてある場合でも、転倒等の事故が発生し、施設に過失がある場合は、その過失が免責されるわけではありませぬので、念のため申し添えます。

※別紙は、入所時説明書（参考例）の説明項目を一部追加した平成 27 年 3 月版です。

【入所時説明書】（参考例）

入所者： _____ 様 年齢 _____ 歳 性別 _____

説明医師

当施設では利用者が快適な入所生活を送られますように、安全な環境作りに努めておりますが、利用者の身体状況や病気に伴う様々な症状が原因により、下記の危険性が伴うことを十分にご理解下さい。

- ※ 参考例では、説明者を説明医師としておりますが、施設のご事情に応じて、「担当支援相談員」や「説明担当者」と表記することも可です。
- ※ 説明者を2名とすることも可です。
- ※ コピー等をとって、控えを利用者にお渡し下さい。

（_____ ございましたら□にチェックをお願いします。）
転落等による骨折・外傷、頭蓋内損傷の恐れがあります。
このこと、原則的に拘束を行わないことから、転倒・転落に
容易に骨折する恐れがあります。
皮膚剥離がしやすい状態にあります。

- 健常者では通常感染しない状態であっても、高齢者は免疫力の低下により疥癬等の感染性皮膚疾患にかかりやすく、悪化しやすい可能性があります。
- 高齢者の血管はもろく、軽度の打撲や少しの圧迫であっても、皮下出血が出来やすい状態にあります。
- 加齢や認知症の症状により、水分や食物を飲み込む力が低下します。誤嚥・誤飲・窒息の危険性が高い状態にあります。
- 高齢者は、加齢に伴い肺や気管支等の呼吸器官の機能が低下するため、風邪症状から肺炎等に状態が重症化する危険性があります。
- 高齢者であることにより、脳や心臓の疾患により、急変・急死される場合もあります。
- 本人の全身状態が急に悪化した場合、当施設医師の判断で緊急に病院へ搬送を行うことがあります。
- 日本人が生涯、癌に罹る確率は男性60%、女性40%（国立がん研究センター推計）であり、今後癌を発症する可能性もあります。
- 認知症は記憶障害や知的機能の低下といった基本症状の他に、心理・行動障害（周辺症状）が出現する場合があります。徘徊や昼夜逆転、攻撃的行動、せん妄等の行動障害を起こす可能性があります。

《医学的管理・服薬管理に関して》

- 当施設ご利用（入所）中は、必要に応じて当施設の医師が検査・投薬・処置等を行います。入所時に薬をご持参された場合、本人の状態に応じて処方内容を調整することがありますのでご了承下さい。
- 健康補助食品や市販薬を併用している方の場合、薬の効果が変化したり副作用の恐れがあるため、用法・用量の調整や服用の制限をさせて頂くことがありますのでご了承下さい。
- 特に〇〇様は、身体状況及び服用されている薬の影響から（_____）を起こしやすいと考えられます。

私は、上記項目について、入所者の貴施設利用時のリスクについて説明を受け、十分に理解しました。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 御家族 _____ （続柄 _____）